

# 事業所における自己評価結果(公表)

公表：平成4年3月28日

事業所名

仙台市大野田たんぽぽホーム

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		コロナ禍で密を避けるため工夫しながら調整している。身体を動かす時には、空間を広くとれるように空間にある物は片づけている。	部屋数が少ないので、パーテーションなどを工夫し活用していく。
	② 職員の配置数は適切である	○		分離活動では、子対応を手厚く行っている。	親子活動においても、利用形態や子の状況を考慮しながら、登園スタイルや職員体制を考えていく。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		朝の支度の配置等、子ども達の様子を見ながら試行錯誤を重ねてきた。児の姿に合わせてパーテーションで空間を区切ったり、視覚的にわかりやすくしている。また、保護者にも分かりやすいよう、ボードを使い、予定などを掲示する工夫をしている。クラス全体、個々に応じて環境を設定している。	
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		換気、消毒など必要に応じて行っている。	療育中に職員配置の変更をする場合、スムーズに行うことが、難しかったため、事前に職員間で変更を想定したシミュレーションを行い、確認していく。
業務改善	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		昨年度保護者の評価について市からは開示されるのが遅かったため、法人内で行い改善を目指した。丁寧に聴き取りをし、職員で共有し改善に努めた。全体で反省し改善するために話し合っている。	保護者の思いをくみ取る努力は続けているが、各家庭や母たちの要望の内容がさらに複雑化しているため、ひとりひとりにあった対応の工夫が必要である。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		評価表の結果を踏まえ、改善内容を法人ホームページで公開し、ホーム内にも掲示している。	
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		リモート研修の活用し、幅広い研修に参加できるようにしている。	
適切な支援	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者のニーズも踏まえながら、子どものニーズや課題を分析して作成した。記入用紙の項目が細かくすることで、クラス内で共通認識しやすくなった。	
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		必要な支援について、家庭の状況を見ながら検討している。	
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		クラス会議または、その都度話し合いながら行っている。	
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動のねらいに沿って、職員でアイデアを出し合い、バリエーションある活動を行う。繰り返しの活動が必要な時はそれを保護者にも伝えている。	

の提供	⑩	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		集団を中心に療育を行う中でも、個別プログラムを取り入れ、支援計画を作成している。	きょうだいの預かりなどの対応が充分にできない場合もあるが、保護者の意向に耳を傾けて出来る限り対応していく。
	⑪	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援のねらいや個別の伝達など、必ず打ち合わせをしている。	
	⑫	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		ねらいに対する振り返り、保護者との会話で共有した方がよい部分、次回へつなげる部分を中心に話し合っている。	
	⑬	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		全職員で反省をおこない、ノートに記録している。	
	⑭	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		様々な職員から意見を聞き、支援計画の見直しを行い、子にあった支援内容に変更している。	
関係機関や保護者との連携	⑮	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		クラス担任だけでなく、地域相談員や園長も参加している。	
	⑯	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		地域相談員が担っており、相談内容に合わせて、つなげる関係機関を検討し、連携している。	
	⑰	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		保護者に許可を得て、病院や区と連携をとり、家庭、お子さんの情報を共有している。	
	⑱	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		保護者に同意を得て共有できるようにしている。	
	⑲	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		了解を得られる園、保護者に関して情報を共有している。	
	⑳	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		該当なし	
	㉑	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		定期的に会議を開き、情報共有、研修を受けている。	
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		親子活動、分離活動の中で、保護者とお子さんの様子について、確認している。保護者の思いも確認するようにしている。	
	㉓	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	㉔	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		面談の時期に、今のお子さんの様子や必要な支援について共有し確認している。	

保護者との説明責任等	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		タイムリーに対応できるような体制をつくっている。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○		
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		保護者の思いは様々なため思いに添いながら対応している。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		今年度はコロナのため出入りを制限していた。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		避難訓練や看護師を通して、必要な対策について保護者に周知してきた。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月避難訓練を行っている。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		入園時とその都度必要に応じて看護師も含めて聴き取り対応している。
	④④	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		資料の読み合わせ、具体的な事例の研修を受けている。

※この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。